〈第四章の資料にかかわる引用参考文献〉

丸山真男『自己内対話』（前掲書）
木村敏『生命のかたち／かたちの生命』（青土社、一九九二年）
竹内敏晴『時満ちくれば――「愛」へと至らんとする15の歩み』（筑摩書房、一九八八年）
長尾龍一『遠景の法学』（木鐸社、一九八二年）
藤川吉美『正義論入門』（論創社、一九七九年）
大澤真幸『ナショナリズムの由来』（講談社、二〇〇七年）
読売新聞大阪本社・第一九六七八号（二〇〇七年十一月七日　水曜日　二十八面）
『クリシュナムルティの世界』（前掲書）
吉本隆明『背景の記憶』（宝島社、一九九四年）
埴谷雄高『埴谷雄高ドストエフスキイ全論集』（講談社、一九七九年）
古東哲明『〈在る〉ことの不思議』（勁草書房、一九九二年）
辻邦生『廻廊にて』（新潮文庫、一九九三年）
武満徹『音、沈黙と測りあえるほどに』（新潮社、一九七一年）
三浦雅士『私という現象――同時代を読む』（冬樹社、一九八一年）
松山俊太郎『インドを語る』（白順社、一九八八年）
村瀬学『恐怖とは何か』（ＪＩＣＣ出版局、一九九二年）
Ｊ・クリシュナムルティ『クリシュナムルティの瞑想録――自由への飛翔』（大野純一訳、平河出版社、一九八二年）
Ｊ・クリシュナムルティ『既知からの自由』（前掲書）
Ｈ・ベルクソン『精神のエネルギー』（宇波彰訳、第三文明社レグルス文庫、一九九二年）

大森荘蔵『流れとよどみ――哲学断章――』（産業図書、一九八一年）
種村完司『心―身のリアリズム』（青木書店、一九九八年）
尾高朝雄『名著復刻1　自由論』（ロゴス社、二〇〇六年）
エルヴィン・シュレーディンガー『精神と物質―意識と科学的世界像をめぐる考察』（中村量空訳、工作社、一九八七年）
小林秀雄『小林秀雄全作品別巻1感想（上）』（前掲書）
D・ボーム『全体性と内蔵秩序』（井上忠・伊藤笏康・佐野正博訳、青土社、一九八六年）
大野純一他『クリシュナムルティの会　会報第34、35、36号合併号』（前掲書）
レックス・ヒクソン『カミング・ホーム』（高瀬千尋訳、高瀬千図監訳、コスモス・ライブラリー、二〇〇一年）
木田元＋竹内敏晴『待つしかない、か。二十一世紀　身体と哲学』（春風社、二〇〇三年）
J・クリシュナムルティ『クリシュナムルティの教育原論――心の砂漠化を防ぐために』（前掲書）